

# 地域の防災

鬼北町 危機管理課

危機管理監 盛澤 朗彦

本年度から、鬼北町危機管理課に勤務しております盛澤と申します。

前職は、宇和島地区広域事務組合消防本部および消防署に令和元年3月まで在籍しており、大半を予防課というセクションで仕事をしました。

平成30年7月豪雨災害の時は、鬼北町消防署の職員として皆さまと苦難を共にいたしました。

本題の前に、皆さまと一緒に考えたことがあります。「住みやすい地域」とは、と聞かれたら、何と答えますでしょうか。それぞれの個人の価値観の違いからたくさんのお答えが返ってくると思います。順位は別として、「安心して住めるところ」「活気のある街」「綺麗な風景」こんなフレーズを思い浮かびませんか。

深読みすると、これらの言葉は、人が助け合い共存して初めて現実になると思いませんか。警察、病院、消防、コンビニ等24時間絶え間なく地域を支えている施設、消防団等、事あれば、地域に汗を流

してくださる人々、他の企業もわかりです。列挙したら数えきれません。

不要な職業はありません。必要だから職業は存在します。人も、生き物も全てが、何らかの使命を委ねられて生きています。それぞれがエキストラとして、役を演じるように設定され、誰かの支えとなったり、影響（良い事・悪い事を含め）を与えたりする使命を持ち合わせていると私は考えています。

また、地域にはそれぞれ、自治会があり、色々な役割をボランティアで支えています。

これらの全ての歯車が噛み合っ

て住みやすい地域を形成している

と私は考えます。

地域に住まわれている住民は、お客さまではなく、お互いを支え合う歯車として、ご活躍していただ

だけることが「住みやすい地域」となると思います。主役は貴方です！必ず舞台の役柄があります。

一人の配役として普段から進んで参加しましょう。前段が長すぎました。

を踏まず生きることが私たちの使命ではないでしょうか。私の信条として前職の「類似火災の予防」から現在は、「類似災害の対応と減災」が課題であると思っております。

物事を成し遂げるためには、物・人材・資金の三本柱が必要となります。これらは有限であり、我が鬼北町は人口減と高齢化に伴い限界集落を目前とした地域も点在し厳しい状況下にあります。

一 物が不足していれば、知恵を出し代用品を考えます。

一 人材が足りなければ、簡素化、効率化を考えます。

一 資金が足りなければ、集める工夫を考え、持ち寄りも考えます。

水と安全がタダと考えるのは日本人だけと言われます。

こんな話を聞いたことはありませんか。「大阪のおばちゃん」は、バックに飴玉を持っており、会う人にあげたり、交換したりすることがよくある。「これも防災に繋がります。東北震災の時、ある保育園では、飴玉を分け与え、空腹をしのいだと聞きます。山が好きの方は、飴玉やチョコレート、ビスケットが非常食として有効であり、リュックに携行することが通例となっていることをご承知としたいと思います。

「避難所に行けば、誰かが何と

かしてくれる。」と、そんないい話はありません。住民・プラスアルファの衣食住を一週間分、または三日分でさえ、備蓄することは、行政では不可能です。それが現実です。局地的な災害であれば、被害を免れた地域から物資の支援は可能です。しかし、輸送運搬事情も考慮しなければなりません。テレビでは悲惨な状況は映しませんが。私たちは断片しか知りません。私たちがポジティブに生きていくには、日頃から非常食を含めた必要最小限の備蓄は個人で行うのが基本です。

また、不幸にして避難所を使用する場合は、皆被災者です。あくまでもお客さまではなく、一人一人がキャストとして行動していただくようお願いいたします。

災害時には、行政の多くの職員は、消防団員として活動しなければならず、残りの職員も決められたルールで仕事を継続しなければなりません。自助・共助が地域の防災には不可欠です。

次回につづく

